

2012年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500hPa高度は、大西洋からユーラシア大陸北部では寒帯前線ジェット気流の南北蛇行が大きかったことに対応して、正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが卓越し、大西洋東部と西シベリアではリッジが明瞭だった。オホーツク海付近を中心とする上空の低気圧は平年より強かった。ユーラシア大陸北部では西シベリアを中心に高気圧が発達し、同大陸の中緯度帯は広い範囲で低温となった。北アフリカからユーラシア大陸南部、日本付近にかけての亜熱帯ジェット気流は平年より強かった。

熱帯の対流活動は、インド洋からフィリピン付近で平年より活発、太平洋赤道域の日付変更線付近で不活発だった。対流圏下層の赤道域では、太平洋西部から中部は東風偏差、東部は西風偏差となった。対流圏上層では、インド付近から日本の南海上にかけては高気圧性循環偏差、中部太平洋熱帯域は低気圧性循環偏差となった。赤道季節内振動(MJO)に伴う対流活発な位相は、中旬から下旬にかけて大西洋からインド洋を東進した。南方振動指数は+0.3だった。

世界の天候

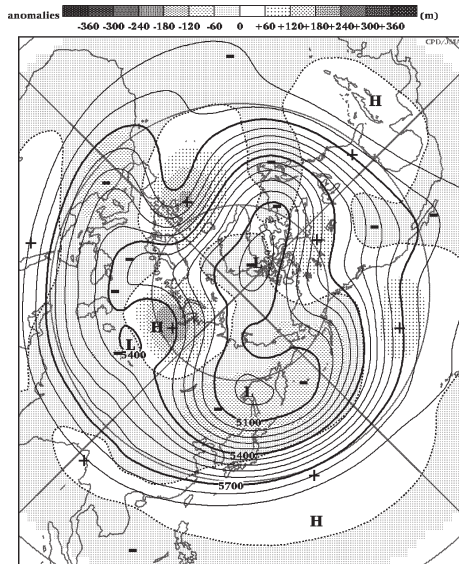
2012年2月の世界の月平均気温偏差は -0.12°C であった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.76^{\circ}\text{C}/100$ 年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- モンゴル中部からアフリカ北西部にかけて、勢力の強い高気圧の南縁に沿って寒気が入り、異常低温となった。
- 中央シベリア北部からアイスランドにかけて、異常高温となった。
- ヨーロッパ西部では異常少雨となった。
- アルゼンチン北部およびその周辺では、異常高温となった。

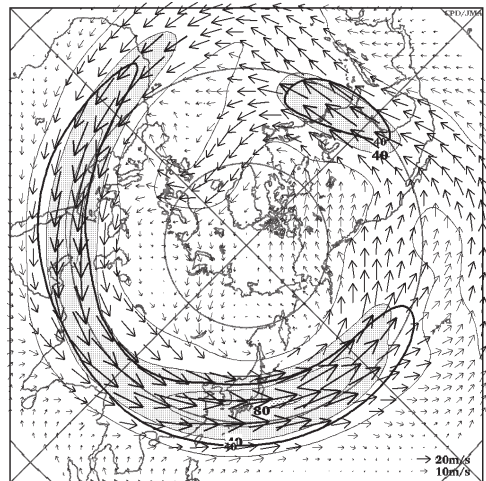
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

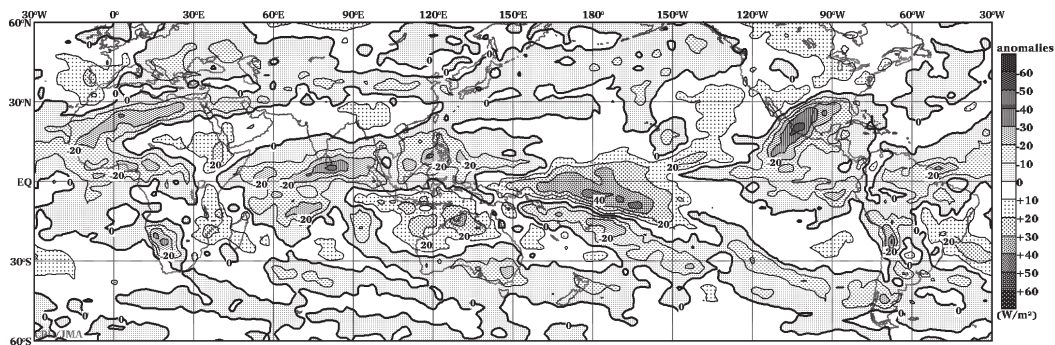
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



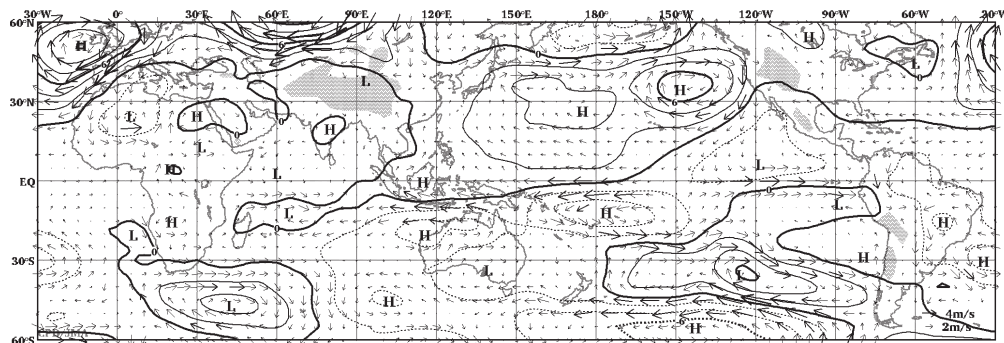
2012年2月の北半球月平均500hPa高度および年偏差
等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



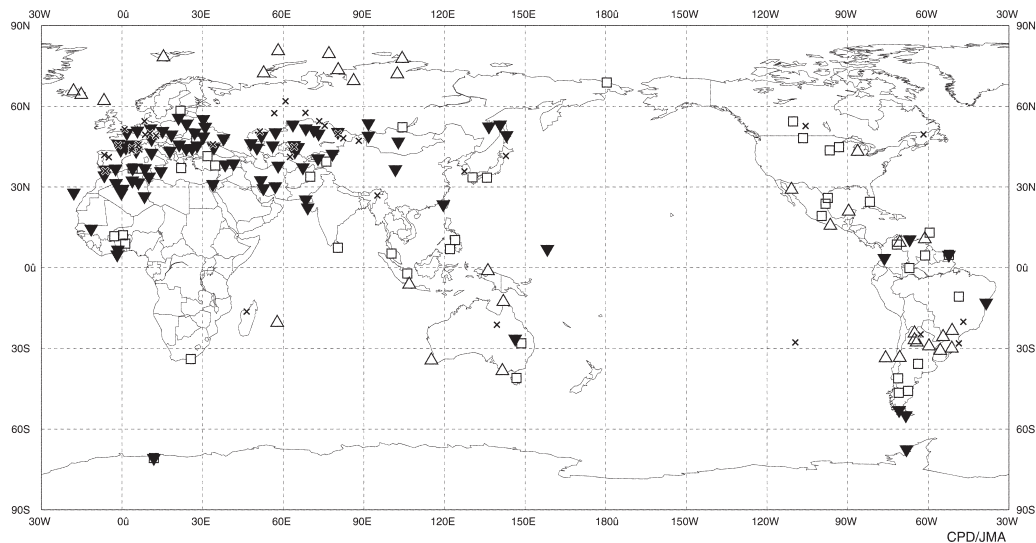
2012年2月の北半球月平均200hPa風速および風ベクトル
等値線間隔は20m/s。陰影部は40m/s以上。太実線で囲まれた領域は平均の40m/s以上の領域を示す。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2012年2月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年2月の月平均850hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。